



ありあけ

佐賀大学農学部
同窓会報
No.18

発行日 2016年7月1日
編集 会報編集委員会

発行 佐賀大学農学部同窓会
住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ <http://sadai.jp/alumni/>

巻頭言



佐賀大学農学部と私

～佐賀から世界を変える農業ITテクノロジーで佐賀を世界のIT農業先進地域に～

株式会社 オプティム 代表取締役社長 菅谷 俊二
(H14年卒・施設)

皆様、こんにちは。私は、1996年度農学部生物生産学科に入学したもので、佐賀大学在学中にIT関連の株式会社オプティムを創業し、2015年に東証一部へ上場を果たすことが出来ました。

弊社が上場できたのも佐賀大学の先生方、佐賀県の皆様の多大なご支援があって実現できたことなのですが佐賀大学農学部と私の出会いは本当に偶然のものでした。

神戸で生まれ育った私は、1年浪人し他の国立大学の前期試験にも失敗し、後期日程で受験する大学を探していました。

準備が不足していた私は、色んな大学に後期日程の願書を送ってほしいとお願いするも、どの大学も大学まで願書を取りに来いとおっしゃいました。

そのような中、佐賀大学の教務の方だけが早く願書を宅急便で送ってくださいました。

そのご縁で、佐賀大学に入学し、学部生を7年半もかけて小島孝之先生、田中宗浩先生の多大なご指導によりなんとか卒業できました。

そんな私が、再び先生方のご指導を頂きながら夢中で取り組んでおるのが「農業IT」です。

今、時代は「第4次産業革命」に向かっていと言われており、人工知能やセンサ、ドローンなどの機器がインターネットでつながることで様々な産業が一変すると言われていいます。

農学部の渡邊啓一先生をはじめとする先生方、農試の연구원の方々にご指導を頂きながら農業をもっと「楽しく、かっこよく、稼げる農業」へと変えて

いくための研究・製品開発を行っています。すでにドローンを畑の上空で飛ばし人口知能が画像解析することで大豆の害虫の場所を特定し、農薬をその部分にだけ撒くというようなことにも成功しつつあります。これが成功すれば農薬の散布量は減り、減農薬、無農薬野菜が低コストで生産できるようになります。私は、これらの取り組みは第4次産業革命以降の農業のあり方を決定づける取り組みであることを確信しています。

不思議なものです、佐賀に縁もゆかりもなかった人間が、学生として育てていただき、社会人として支援いただき、株式公開を実現でき、そして、次なる時代への大きなステージへと導いていただいております。先生方には、正に恩師という言葉以外の言葉が見つかりません。佐賀大学、農学部の先生方々には、そのように寛容でかつ大きな変革の芽を紡ぎだす何かがあるように感じてなりません。いつかは、私自身、私達が佐賀大学、佐賀県の皆様のお役に立てるよう邁進してまいります。



第31回（平成28年度）同窓会総会・講演会・アトラクションを開催

佐賀大学農学部同窓会では、平成28年5月28日（土）に農学部大講義室で、第31回総会を開催し、平成27年度の事業実績・決算、平成28年度の事業計画・予算、役員改選についての審議を行いました。

来賓として全学同窓会会長の金丸安隆様、農学部同窓会熊本県支部長の永井典昭様に出席いただき、永井様は熊本震災に対する協力のお礼と、今後復興に向けて取り組んで行く決意を述べられました。出席者については73名と昨年の記念総会に比べて若干少なくなりましたが、県内各支部を中心にたくさん同窓生の出席がありました。

議事は、原憲義様（S43年卒・農土）に議長をお願いして審議をすすめていただき、いずれの議案も賛成多数で承認されました。

総会後は、佐賀大学農学部准教授の古藤田信博先生に「くだもの研究から地方創生へ」と題して講演をいただきました。古藤田先生は、農林水産省果樹試験場の研究員として（後に独立行政法人農研機構主任研究員として）、リンゴや柑橘の育種に携わった経験とその勤務地の様子などを交えてお話くださいました。それぞれの土地にはおいしいものや文化、スポーツなど良いところがあり、果物では山葡萄やかんきつなどを使った特産品が開発されるなど地域

おこしに貢献しているものがたくさんあること。佐賀にも農産物をはじめ、素晴らしいものがあり、それらの中から機能性などの研究を行い、地域おこしにつなげたいと今後の抱負もお話いただきました。

講演会の後は、佐賀大学混声合唱団コーロ・カンフォーラの合唱により、60周年記念事業で作成した農学部の歌「学部歌」と「学生歌」の2曲を披露していただきました。作曲をお願いしました橋本正昭先生の指揮で、ピアノ演奏は濱手美貴子様にお願いしました。

その後は、会場を生協の「かささぎホール」に移して、懇親会で大いに盛り上がりました。来賓として、佐賀大学農学部長渡邊啓一先生ほか多数の学校関係の方にご参加いただいたほか、橋本先生、濱手様、さらにコーロ・カンフォーラの学生さん達にも参加いただき、在校生・教職員・卒業生の交流の場としての楽しいイベントにすることができました。

総会は、私たち同窓会の1年の活動方針などを決める重要な場であるだけでなく、同窓生をはじめとする関係の方々の絆を深める場でもあります。これまで総会に参加されていない同窓生の皆様も、来年はぜひ総会への出席をよろしくお願いたします。

重富 修（S59年卒・育種）



平成28年度総会（農学部大講義室）



農学部の歌披露（コーロ・カンフォーラ）

■ 役員の変更 役員の一部を改選しました。

担当役職	氏名	卒年・学科（専攻）
副会長	小池 良美	S56・農学（農経）
副会長	溝口 宜彦	S56・農学（作物）
理事長	田中 俊之	S59・農学（農経）
理事	條島真紀子	H7・応生（病理）

担当役職	氏名	卒年・学科（専攻）
理事	古藤 英樹	H4・応生（植病）
監事	青木 久生	S58・園芸（蔬菜）
監事	重富 修	S59・農学（育種）

平成27年度事業報告および収支決算

(H27.4.1～H28.3.31)

■事業報告

次の事業を執行し、同窓会の円滑な運営、支部活動の充実に努めました。

- (1) 大学との意見交換会の開催や農学部創立60周年記念事業など相互に連携した取組を行った。
- (2) 在学生支援として、在学生・教職員・卒業生の交流会を開催した。
- (3) 会報「ありあけ」16、17号の発行・配布。
- (4) 大学主催の就職ガイダンス、農業版MOT講座等への支援。
- (5) 支部への支援、全学同窓会支部との連携。
- (6) 同窓会員名簿の整理、会員へのデータ提供。

■平成27年度収支決算

- (1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科 目	27年度実績
前年度繰越金	186,129
会 費	4,141,000
学生（新入生）	3,300,000
一般会員	841,000
雑 収 入	371,980
特別会計戻入	1,500,000
計	6,199,109

【支出の部】

単位：円

科 目	27年度実績
事 務 費	1,157,883
会 議 費	227,417
事 業 費	1,632,851
うち60周年記念事業費	783,079
組 織 強 化 費	482,904
全学同窓会負担金	1,650,000
特別会計への繰出金	345,000
新入生入会金	75,000
会費平準化準備金	270,000
予 備 費	0
計	5,496,055

- (2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科 目	27年度実績
前年度繰越金	14,401,596
一 般 分	7,499,402
会費平準化準備金	6,902,194
入 会 金	75,000
会費平準化準備金	270,000
雑 収 入	1,865
計	14,748,461
一般分 (a + c + e)	7,574,754
会費平準化準備金 (b + d + e)	7,173,707

【支出の部】

単位：円

科 目	26年度実績
繰出金（一般会計へ）	1,500,000

平成28年度事業計画および収支予算

(H28.4.1～H29.3.31)

■事業計画

- (1) 会員に対し同窓会をより身近なものとしていくため、支部の体制・活動をより充実するとともに、会報を発行するなど各種情報の提供を行う。
- (2) 更なる組織の強化・活性化を図るために、支部未加入者を対象として既存支部への加入促進や、地域組織との連携を図る。
- (3) 農学部と同窓会との意見交換会を開催するなど、相互に連携した取組を行う。
- (4) 準会員である学生に対する支援を行うとともに、卒業生との交流促進に取り組む。
- (5) 農業技術経営管理士（農業版MOT）養成の取組に連携して協力支援を行う。

■平成28年度収支予算

- (1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科 目	28年度予算
前年度繰越金	703,054
会 費	4,100,000
学生（新入生）	3,300,000
一般会員	800,000
雑 収 入	200,946
特別会計戻入	500,000
計	5,504,000

【支出の部】

単位：円

科 目	28年度予算
事 務 費	860,000
会 議 費	600,000
事 業 費	1,205,000
うち60周年記念事業費	250,000
組 織 強 化 費	450,000
全学同窓会負担金	1,650,000
特別会計への繰出金	375,000
学生入会金	75,000
会費平準化準備金	300,000
予 備 費	364,000
計	5,504,000

- (2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科 目	28年度予算
前年度繰越金	13,248,461
一 般 分	6,574,754
会費平準化準備金	6,673,707
入 会 金	75,000
会費平準化準備金	300,000
雑 収 入	2,000
計	13,625,461
一般分 (a + c + e)	6,651,754
会費平準化準備金 (b + d)	6,973,707

【支出の部】

単位：円

科 目	27年度予算
繰出金（一般会計へ）	500,000

佐賀大学農学部創立60周年事業

農学部創立60周年事業で同窓会から時計と歌を贈ることになりました。時計の贈呈式と農学部の歌の審査会が行われました。

(1) 時計の贈呈

平成28年3月18日、農学部学部運営会議室で贈呈が行われ、川副会長から渡邊啓一農学部長に目録と柱時計が贈られました。

(2) 佐賀大学農学部歌の審査会

農学部の歌は、会報及び学内ポスターで歌詞の募集が行われ、平成27年12月11日、農学部長室で選考が行われました。選考委員は、農学部長渡邊啓一教授、文化教育学部の橋本正昭教授と今野厚子教授、コーロ・カンフォーラの市瀬雅貴様と岡部祥子様、農学部同窓会の川副操会長でした。選考の結果、今回は2作が選ばれ、農学部学部歌と農学部学生歌を贈ることになりました。農学部学部歌は姉川恭子様に農学部学生歌は酒谷真以様の作品が選ばれました。作曲は橋本教授が2作ともされることになりました。



時計贈呈式 (H28.3.18)



選考委員会 (H27.12.11)



レコーディング (H28.5.18)

「農学部の歌」作詞募集への想い 学部歌に想いを込めて

作詞 姉川 恭子

作詞を行うに当たり、「佐賀大学創立五十周年農学部記念誌」における寄稿文を拝見し、農学部の教育・研究では、単なる学問に留まらず、農学に関する幅広い知識と応用能力により、人類の持続可能な発展に資するべき人材育成をも目指してきたということに大変感銘を受けました。生まれ育った佐賀の豊かな自然を想像しながら、農学部の今後の更なる発展に想いを込めております。関係者の皆様のご支援によりこうして一つの作品として命を得ることができたことに心より感謝申し上げます。

農学部の歌 学生歌

作詞 酒谷 真依

今回の作詞のきっかけは掲示板で案内を見かけ、興味を持ったことでした。農学部の学生の共感を少しでも得られる作品にしたいと思い「大学生活」をテーマとしました。これは私自身が4年間を振り返る良い機会となり、佐賀大学農学部でしか学べない知識や多くの支えがあって今を充実して過ごしているのだと改めて気付かされました。多くの方々と一緒に1つの作品を作り上げた今回の経験はかけがえのない思い出です。ありがとうございました。

佐賀大学農学部 学部歌

姉川恭子 作詞
橋本正昭 作曲

Andantino (♩=92) *poco rit.* *p* *a tempo*

さ が の だ い ち に ー ね
を お ろ し す あ し で ふ み し め か さ
ね た ま な び と お く て ん ざ ん あ お ぎ つ つ ー
い く た の き せ つ つ ら ね た ち な え は い つ し か
あ お あ お と や が て い ろ づ き み の り ゆ く ー た の も を ー め ぐ る
か ぜ の ご と く
mf た の も を ー め ぐ る か ぜ の ご と く
mp *a tempo* *mf* *poco a poco cresc.*
た と え じ だ い は か わ ろ う と も ひ と の せ か い の み き と な ら
ん (な ら ん) な ら ん) こ の ち に ー い か し い か さ れ た
わ れ ら さ が だ い が く ー の う が く ぶ の
う が く ぶ A ー A ー ー

佐賀の大地に根を下ろし
素足で踏みしめ重ねた学び
遠く天山仰ぎつつ
幾多の季節連ねた知
苗はいつしか青々と
やがて色付き実り行く
田の面も巡る風のごとく
たとえ時代は変わろうとも
人の世界の幹とならん
この地に生かし生かされた
われら佐賀大学農学部

佐賀大学農学部 学生歌

酒谷真以 作詞
橋本正昭 作曲

Andante giocoso (♩=80)

(前奏) FM7 Em7 FM7 Em7 D7 Bm7 E D E D

mp *cresc.* *mf* かがく せいぶつ

C6 D9 E F G D7 CM9 E *mp* D Am7

しゃ かいがく なんでも—まなべる— のうがくぶ どこにすすむか—

D F9 D7 Bm7 E9 FM7 Eb6 $\frac{AmZ}{D}$ Ab11 G6 $\frac{DmZ}{G}$

きみしだい— かならず みつかる やりたいこと— すてきななかまに—

CM7 F11 Bb9+6 Eb11 G7 A9 G9 F#9 F9

かこまれて みらいをひらく— がくせい—たち— まさにそれこそさがだいがく

Db9 F9 A (間奏) G7 A CM7 D7 Bm7 E D

f のうがくぶ —

E D C6 D9 E FM7 G7 D7 C6 E

mf じっ けん じっ しゅう ほうこく かい きたいに—あふれて— けんきゅうしつ

D Am7 D Am7-5 D7 Bm7 E9 FM7 Eb6 $\frac{AmZ}{D}$ Ab11

mp *mf* きそをかためて— おうようへ— ちしきの かずが— ふえるたび—

G6 $\frac{Dm7}{G}$ CM7 F11 Bb9+6 Eb11 G7

f *mf* かんがえなやむひ— つづくけど たかみをめざす— どうしたち—

A9 G9 F#9 F9 Db9 F9 (間奏) G7 FM7 Bb9 Am9

f *ff* *f* まさにそれこそさがだいがく のうがくぶ —

Eb11 B9 E D C6 D9 E F G
 しゅうかつ そつろん そつぎょうしき すべては一どりよくのー
 D7 CM7 E D Am7 D F9 D7 Bm7 E9
 そうけつ さん きぼうにみちてー いざかどでー いろんなおもいで
 FM7 Eb6 Am7/D Ab11 G6 Dm7/G CM7 F11 Bb9+6
 あるけれどー まなびしことがー かてとなりー ひろいせかいにー
 mf Eb11 G7 A9 G9 F#9 F9 Db9 F9 A G7
 はばたくなかまー まさにそれこそさがだいがく のうがくぶー
 FM7 Em7 FM7 Em7 Bbd4 EbM7 rit. ----- a tempo GM7 A (A15)
 Lan La Lan La Lan La のうがくぶ
 mp p pp fff

- 一、化学 生物 社会学
 なんでも学べる農学部
 どこに進むか君次第
 必ずみつかるやりたいこと
 素敵な仲間に囲まれて
 未来を拓く学生達
 まさにそれこそ佐賀大学農学部
- 二、実験 実習 報告会
 期待にあふれて研究室
 基礎を固めて応用へ
 知識の数が增えるたび
 考え悩む日続くけど
 高みを目指す同志達
 まさにそれこそ佐賀大学農学部
- 三、就活 卒論 卒業式
 全ては努力の総決算
 希望に満ちていざ門出
 色んな思い出あるけれど
 学びしことが糧となり
 広い世界に羽ばたく仲間
 まさにそれこそ佐賀大学農学部

▶ 農学部の歌のCDをご希望される方は佐賀大学同窓会事務局までご連絡下さい。

同窓会長賞授与

■■ 同窓会長賞 受賞者の手記 ■■



佐賀大学同窓会長賞

農学研究科 生物資源科学専攻

平野 剛 史

この度は、佐賀大学同窓会長賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。

2011年3月、東北地方を震源とする東日本大震災が発生し、震災とそれに伴う津波によって甚大な被害を受けました。特に津波による被害は非常に大きく、福島第一原発事故に起因する放射能汚染をはじめ、化学物質による環境汚染が大きな問題となっています。そのような中で、私は海洋環境における残留性有機汚染物質による環境汚染および河川環境における水生昆虫を用いた放射能モニタリングについて研究を行いました。研究の結果として、二枚貝中におけるポリ塩化ビフェニル（PCB）に代表される残留性有機汚染物質濃度は震災前後と比較して明らかに上昇しており、この結果より震災による影響が明らかになりました。しかしながら、その後は低減傾向がみられ、震災から2年後には震災前と同程度まで回復することが明らかになりました。また、固着性の水生昆虫であるヒゲナガカワトビケラ幼生を用いた放射能モニタリング調査においても同様の傾

向がみられ、現在、宮城県内の河川における放射性セシウム濃度は低濃度で推移しています。一方で、福島県内の河川の一部では現在でも高濃度の放射性セシウム濃度が検出されており、今後も継続的な調査を続けていく必要があると結論付けられました。そして本研究により、ヒゲナガカワトビケラ幼生はその他の水生昆虫と比較してより高濃度に放射性セシウムを蓄積することが明らかとなり、本種を指標とした放射能モニタリング手法を確立することができました。

これらの研究結果が認められ、日本環境化学会大会（第23回環境化学討論会）ではSETAC賞（優秀学生賞）を受賞することができました。これも私一人の力によるものではなく、熱心かつ丁寧にご指導頂いた上野先生をはじめ、研究室の先輩、友人、後輩の協力、そしてこれまで支えてくれた両親がいてくれたからです。この場をお借りし、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりますが、私は4月から佐賀県農業試験研究センターに就職しました。任期採用ではありますが、佐賀大学での学生生活で得た経験を佐賀県の農業発展に少しでも貢献できるよう、高い志を持って精進していきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。



農学部同窓会長賞

生物環境科学科
生物環境保全学コース

中村 一 歩

この度は、農学部同窓会長賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。

私は卒業論文として、『竹炭の種類および粒径の違いによる水質浄化機能の比較』について研究しました。近年環境問題の一つとなっている竹林拡大の対策として、竹を資源としてより有効に活用できないかと考え、竹の多孔質な特徴に着目しました。竹炭を砕いてろ過材にし、竹の種類や粒径の違いによる水質浄化機能の比較検討を行いました。その結果アンモニア態窒素の水質浄化には効果的でありまし

たが、その一方で、竹の種類や粒径によってはりん酸態りんが溶出したりCODが増加したりするなど、逆に水質を悪化させてしまうことがわかりました。そのため、どの種類のどの粒径の竹炭が水質浄化に最も効果的であるか一概に決めることは出来ませんが、目的に応じて使い分ければ効率的に水質を浄化させることが可能であるという結論にいたりしました。

現在私は、技術者として建設コンサルタントで勤務しています。小さい頃から農業に携わる仕事に就きたいと考えていた私は、佐賀大学の農学部を受験しました。入学した頃は、漠然と農業に関わりたいと思っていましたが、大学で勉強や研究をするうちに、農業土木という分野から日本の農業の発展に貢献したいと思うようになりました。まだ入社して2

カ月程度で右も左も分からない状態ですが、早く技術を習得して会社の一員として役に立てるように頑張っているところです。また将来的には技術士の資格を取得して、自分が設計した構造物を造ることが夢です。

最後に、大学生生活の4年間は、いろんなことを学び、経験し、自分なりに大きく成長できたと思っています。充実した大学生生活を送ることが出来たのも、

やりたい仕事を見つけその仕事に就くことが出来たのも、指導教員である近藤先生を始め、先輩や友人、家族など周りの方々のたくさんの支えがあったからです。本当にありがとうございました。

これからは社会人として立派に成長できるように、感謝の気持ちを忘れずに精進していきたいと思えます。



農学部同窓会長賞

農学研究科
生物資源科学専攻

中畑 絵里子

この度は、農学部同窓会長賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。

私は、「メタボローム解析技術に基づいた麴グルコシルセラミド (GlcCer) の生理的役割に関する基礎的研究」というテーマで研究を行って参りました。お酒をはじめとする発酵食品の製造には、蒸した穀物に麴菌を生やした麴（こうじ）が原料として使用されており、発酵段階においてこの麴菌の他にも酵母などの微生物が共生し、それぞれの役割を果たしています。発酵の役割を担う酵母は、麴菌が持つGlcCerと呼ばれる脂質の一種を取り込むことで様々な生理的特性を獲得しています。これまでの理解として、GlcCerを添加することで酵母にストレス耐性が賦与されることが明らかとなっていました。GlcCerが酵母へと与える影響についてその多くは未解明のままです。そこで本研究では、GC/MSと呼ばれる分析装置を用いて、GlcCer添加酵母中の全成分を対象に分析を行いました。その結果、

GlcCerを添加することで酵母がストレス耐性を獲得するのは、酵母内でのグリセロール量の増加が要因ではないかとの可能性を見出しました。本研究結果は、GlcCerが酵母へとストレス耐性を賦与するメカニズムの解明に繋がると期待されます。

本研究が日本農芸化学会誌において注目記事として選定頂きましたこと、そして佐賀大学農学部同窓会長賞を受賞できましたことは、私一人の力による成果ではありません。研究室に配属されてからの3年半は、思った結果が出ないことの方が多く、苦しく辛いこともありましたが、振り返ってみると毎日がとても充実しており、自分自身が一番成長できた期間であったと感じております。これもすべて、未熟な私に時には厳しくそして丁寧に指導いただきました北垣浩志教授をはじめ、研究室の仲間、友人、そしてこれまで支えてくれた両親のおかげです。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私は平成28年4月からゼブラ株式会社に就職致しました。これまで学んできた分野とは多少異なる業界ではありますが、大学生生活で培ってきたことを少しでも会社や社会に還元できるよう、精進していきたいと思っております。

高取由佳さんが園芸学会「年間優秀論文賞」を受賞

このたび、佐賀県農業試験研究センターに勤務されている高取由佳さん（H11年卒・細胞）が、平成27年度園芸学会「年間優秀論文賞」を受賞されました。高取さんは、農業試験研究センター野菜花き部花き研究担当で、トルコギキョウ、ユリ、ホオズキの育種と栽培の研究に取り組んでおられます。受賞された論文は、トルコギキョウの花の色を決定する遺伝子について発表されたものです。トルコギキョウの育種に取り組む中で、効率的に品種を育成するために、花色や花形の遺伝様式の解明や遺伝子との関係性についての研究を行ってこられました。今回、その成果を発表した論文で受賞され、雑誌の表紙も飾りました。佐賀県のトルコギキョウは、若い生産者も多く、これからの成長が期待される品目です。現在トルコギキョウでは、花色、花形、花の模様等の遺伝様式が明らかになりつつあり、今後様々な色や形の品種を作りたいと抱負を話していただきました。

論文題名

Cloning of the Flavonoid 3'-Hydroxylase Gene of *Eustoma grandiflorum* (Raf.) Shinn. (*EgF3'H*) and Complementation of an F3'H-deficient Mutant of *Ipomoea nil* (L.) Roth. by Heterologous Expression of *EgF3'H*

Yuka Takatori^{1,2}, Keiichi Shimizu^{1*}, Jun Ogata^{3}, Hiroki Endo¹, Kanji Ishimaru⁴, Shigehisa Okamoto¹ and Fumio Hashimoto¹**

¹Faculty of Agriculture, Kagoshima University, Kagoshima 890-0065, Japan

²Saga Prefectural Agriculture Research Center, Saga 840-2205, Japan

³Japan Science and Technology Agency (JST) Innovation Satellite Miyazaki, Miyazaki 880-0805, Japan

⁴Faculty of Agriculture, Saga University, Saga 840-8502, Japan



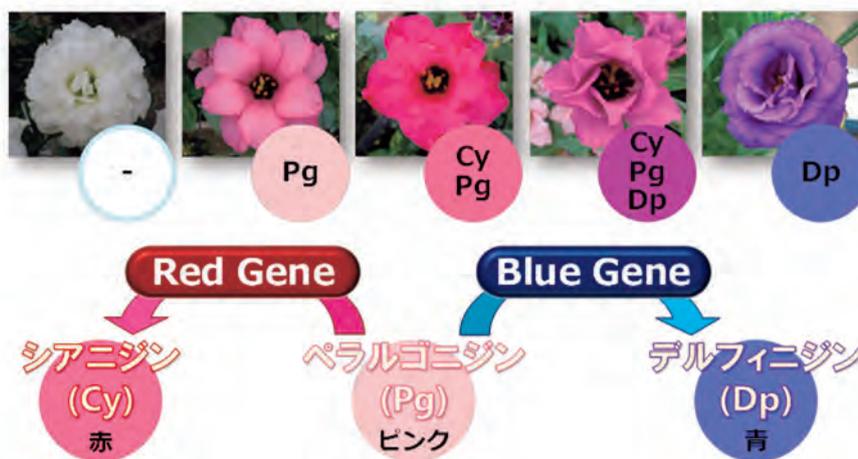
高取さん



雑誌表紙

論文の概要

アントシアニン色素



トルコギキョウの多彩な花色は、3種類のアントシアニン色素、ペラルゴニジン（ピンク色）、シアニジン（赤色）、デルフィニジン（青色）がどのぐらい花弁中に含まれているかにより決定します。本論文は、トルコギキョウからRed Geneと呼ばれるF3'H遺伝子を単離し、シアニジンという赤色の色素を合成する機能を確認した論文です。

重富 修（S59年卒・育種）

恩師からのメッセージ

「我が道を往く」

小林 恒夫



小さい頃の夢は中学校の生物教諭（「虫博士」）

私は海無し県の里山に生まれ、かの山で「ウサギを追ひ」、小川で「小鮒を釣って」育ちました。また蛇や蝙蝠や小鳥を飼い、木の枝に粘った蜘蛛の巣を張り巡らせた網を作って虫を追ったりしていました。更に草花の花粉に興味を持ち、月間学習雑誌の付録の顕微鏡を愛用して『顕微鏡下の世界』と銘打った実験結果ノートを書いて書籍出版の真似事などもしておりました。そして当時「イルカは魚だ」などと発言された中学教諭もおられましたので、反面教師的に中学校の理科（生物）の教諭を夢見ておりました。

他方、農家の長男というしばりもあって大学はむしろ「一般的な分野が見渡せ」て「将来性のある(!?)」分野を期待して農業経済学科（しかし第3志望校でしたが）に何とか入学し、それが結果的にはその後の人生の方向を決定することになりました。

40歳で社会に出た一ギネス並み!?!—

こうして大学入学以来「農業経済学」一筋で大学院博士課程までは順調に進んでまいりましたが、その後に「地獄」とも呼べる厚い（高い）就職の壁が待っておりました。応募書類を出しても出しても「残念ながら貴殿の意に添えない」というお決まりの返事が返ってくるばかりでした。

そうして博士課程の裏（3年間）も過ぎたので満期退学を余儀なくされ、その後は「研究生」となり、何年も授業料を払い続けました。

年齢も30歳近くになり、「就職か結婚か」の両立不能・苦悩の中で、まずは結婚を先に選択しました。幸いそのような早まったことができたのは、当時は「学生結婚」が稀ではなかったという環境があったからです。

結婚3年後に長男が生まれ、さらに次男、長女が生まれましたが、しかし就職はますます厳しくなり、大学や試験場以外に農業団体の試験も受けましたが、待っても待っても「残念ながら…」という手紙が届

くばかりでした。

結局40歳近くになって幸い北海道の女子短大が受け入れてくれることとなりましたので、そちらに行きましたが、そのとき既に長男は小学校に上がっており、博士課程の同級生のY君はH大学教授になっておりました。

趣味は下手なテニスと（チヌとヤマメ）釣り

北海道時代は学生に混じってスキー授業を受けて何とか滑れるようになり、冬季の週末は家族でスキー場に通いました。また夏場は学生・教員との交流をも目的にテニスをしました。テニスは中学時代には軟式クラブに、大学時代には硬式クラブに所属していたことで「腕に覚え」がありました。また夏の週末には熊避けの鈴と鉈を腰に下げて一人溪流に入りヤマメとイワナを追っていました。

そして22年前に佐賀に来てからは改めて東京神田でヨネックスの3万円のデカラケとディアドーラ製の1万5千円のテニスシューズを購入し、一時期は職場の教員やゼミ生とテニスに夢中になり、腱鞘炎（テニスエルボー）で数ヶ月黒板に文字が書けなくなったりもしました。

他方、ヤマメとイワナの「川釣り」に変えて佐賀では「海釣り」でチヌを追ひ、「ヤマメとチヌしか釣らない」などと嘯いておりますが、ヤマメは佐賀県内でも尺物も釣りましたが、チヌは長崎県や熊本県に出掛けて行っても未だ釣れておりません（ただし「手のひらメイト（3年物のチヌ（雌）になる前の雄）」は釣れましたが）。

人生最後の挑戦：趣味と実益を生かし清酒ビジネス本を思案

定年後も、体力と相談してテニスや釣りをやってみたいと思案しておりますが、もう1つ、趣味と実益を生かして清酒に関する社会経済的な時評をまとめてみたいと考えています。それは、いま佐大でも「悠々知酔」関係で清酒造りの実践と話題が高揚し、和食のユネスコ文化遺産登録等を追い風に清酒の輸出が伸び、2012年「家計調査年報」で佐賀市が「清酒購入額日本一」をマークし、全国唯一の「佐賀県日本酒で乾杯を推進する条例」制定などの動きを見て、その実態と要因を分析することが佐賀県と佐賀大学に貢献すると考えているからです。

佐賀大学農学部の地域貢献活動 ～唐津・玄海コスメ構想との連携～

国立大学は平成16年4月から法人化に移行しました。これまでの国立大学は文部科学省の内部組織であったため、画一的で地域のニーズに十分応えることが出来ず、いろいろと不都合なところがあったとのこと。こうした不都合な点を解消し、優れた教育や特色ある研究に各大学が工夫を凝らせるようにして、より個性豊かな魅力のある大学になっていくようにするために、国の組織から独立した「国立大学法人」になりました。国立大学法人制度では、大学の外の人々が大学運営に参加するなど、大学運営の透明性を確保するための仕組みが導入されています。

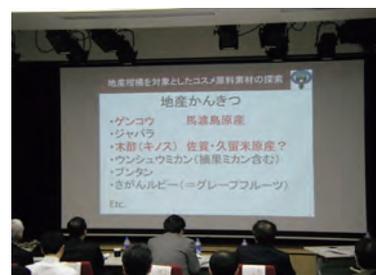
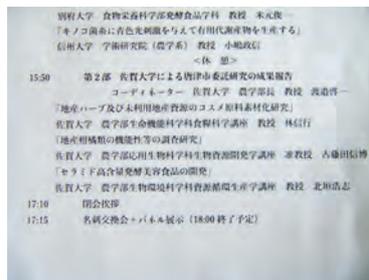
佐賀大学では、平成28年から33年までの事業計画を公表しておりますが、概略は次のようになっております。「佐賀大学は、地域とともに未来に向けて発展し続ける大学として、地域を志向した社会貢献・教育・研究を推進することで、地域活性化の中核的拠点を目指す。また、総合大学の強みを生かし、グローバルな視野により社会の発展に貢献できる学生を育成・輩出し、地域社会を先導する。」とし、地域に重点を置いた目標を掲げております。また、予算は、平成28年度38,915百万円（運営交付金：10,558百万円、授業料：3,824百万円、附属病院収入：17,274百万円、受託研究他：4,985百万円）、常勤職員は1,285名、学生数は6,218名となっております。法人化されたことで、事業計画や予算等が公表され、動きが分かり易くなっています。今後は地域における知の拠点としての役割がますます深まっていくものと思われまます。

このような状況の下、去る3月1日（火）、唐津市において、一般社団法人ジャパン・コスメティックセンター（JCC）の主催で、「美容・健康産業を支える先端技術交流会～大学の研究シーズ・リレー

プレゼン～」が開催されました。佐賀大学農学部からは、第2部で「佐賀大学による唐津市委託研究の成果」が報告されました。生命機能科学科の林信行教授からは「地産ハーブ及び未利用地産資源のコスメ原料素材化研究」、応用生物科学科の古藤田信博准教授からは「地産柑橘類の機能性等の調査研究」、生物環境科学科の北垣浩志教授からは「セラミド高含量発酵美容食品の開発」についての研究成果がそれぞれ発表されました。

フランスでは22年前にコスメティックバレーが設立されており、今日ではこの地域での全体の製品出荷金額は年間2兆円といわれています。フランスの中部シャルトルを中心とした半径150キロメートル内に化粧品メーカー、大学、研究機関、工場等が集積して、周辺農家が栽培する植物から化粧品原料を作っているため、地域経済の活性化と雇用の創出にも貢献しているとのこと。唐津市は、フランスのコスメティックバレーと連携協定を結んでおり、北部九州を中心としたこのプロジェクトは、地域の大学との連携を核として今後ますます発展することが期待されます。

大久保 惇（S47年卒・土肥）



支部だより

佐賀県支部

佐賀県支部では、平成28年5月13日、「グランデはがくれ」において、第9回「農学部同窓会佐賀県支部総会」を、33名の参加の下に開催しました。

総会の開会に当たり、大久保支部長が、まず今回の熊本・大分地震で被災された方々へのお見舞いと被災地の1日も早い復旧・復興を祈ると共に、日頃からの同窓会員の絆づくりの大切さに触れ、さらに県支部での会員拡大に努めていくことを再確認しました。

総会には来賓として全学同窓会会長の金丸安隆氏、農学部同窓会副会長光富 勝氏に出席いただき、全学同窓会の支部組織の設立が進んでいること、また平成30年度の農学部の組織再編に向けた大学の取組状況などを報告していただきました。



総会では、平成27年度の取組並びに平成28年度の計画を承認し、役員改選で支部長に澤野兵五氏（S44年卒・育種）、副支部長に山口俊治氏（S49年卒・土改）、幹事長に内海（S49年院卒・農経）、幹事に服部二郎氏（S50年卒・土改）、森田 昭氏（S52年卒・農経）、松尾孝則氏（S52年卒・植病）、監事に古川辰馬氏（S40年卒・育種）が選出されました。今年度の新入会員として溝口善紀氏（S53年卒・病理）を迎え、会員数は108名になりました。

内海修一（S49年院卒・農経）

会費納入のお願い

日頃より、同窓会活動に多大なご理解を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

同窓会会報「ありあけ」の発行、総会・懇親会の開催、大学との意見交換会、支部助成活動、在学生への就職支援など、多岐に亘る活動をおこなっています。これらの事業は同窓会費で賄われており、同窓生の皆様には大変ご協力をいただいておりますが、近年は年会費納入率が極めて低く、同窓会運営にも支障を来しています。

出費多端のところ大変恐縮ではございますが、同窓会の趣旨をご理解の上、納入いただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、既に納入をして頂いている方につきましては誠に申し訳なくご容赦の程お願い申し上げます。

編集後記

佐賀大学農学部創立60周年の事業も終了し、時計と農学部の歌の贈呈が終了しました。同窓生の皆様のご協力に、改めてお礼申し上げます。農学部同窓会は、これまで数多くの卒業生や恩師の先生方にご支援をいただき、今日に至っております。また、これからも新しい歴史が作られていくものと思われま。過去、農学部は高度成長時期には、日本の人口も増加していて、それに伴って農産物の増産も必要となり、農業生産者との連携が行われていました。しかし、人口が減少して農産物も

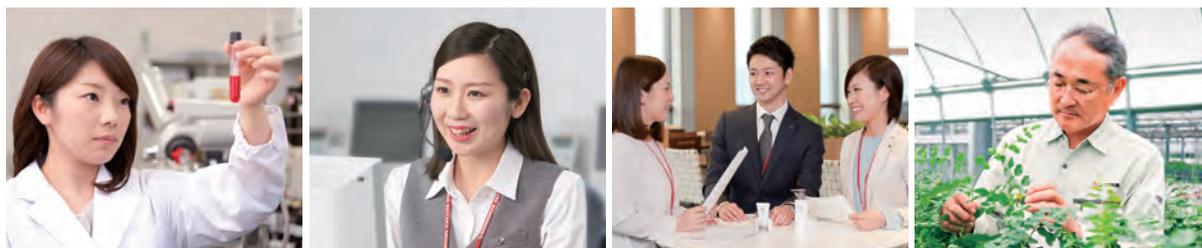
量から質の時代になり、農学部も学科の再編が行われました。最近では国内人口の減少に伴い、農産物を国内だけで消費するのではなく、海外に輸出するという時代になりつつあります。こういった状況の中、佐賀大学は地域に根ざした大学を目指すという目標を掲げて運営が行われています。

これから、農業ビジネス分野において、農学部は地域における知の拠点としてますます重要な役割を求められると思います。

編集担当：大久保 惇（S47年卒・土肥）

協賛広告

この度の同窓会報発刊に際しまして、皆様より協賛広告をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げますとともに、協賛各社の今後のご発展をお祈り申し上げます。



お客様の笑顔のために。今、私たちができること。

お客様へ安心・安全な製品をお届けするために、新日本製薬は、薬用植物の栽培研究から国産原料の調達、製品開発、品質管理、美しい肌づくりをめざした提案型の販売、アフターケア、さらには物流システムにいたるまで一貫して管理し、手掛けています。お客様の最高の満足を求めて。私たちは、感謝の心を忘れることなく、お客様とともに、未来に向かって歩み続けます。

 **新日本製薬** 福岡市中央区大手門1丁目4-7
0120-408-444
One to One health & beauty-care. <http://corporate.shinnihonseiyaku.co.jp/>



天空の星空と夜景で乾杯！

ビアテラス

▶▶▶ 9/24[土]まで営業中！！

営業時間 / 7月・8月 18:00～22:00 (21:30L.O.)
9月 18:00～21:30 (21:00L.O.)

★前日までの要予約 (4名さまより)

お料理プラン

ビアプラン ¥3,500

スタータープラン ¥2,200



飲み放題プラン

90分 ¥1,800

120分 ¥2,300

充実した単品メニューでもお楽しみいただけます。

ご予約・お問い合わせ TEL (0952) 25-9002

ホテルニューオータニ佐賀

The New Otani

〒840-0047 佐賀市与賀町1-2 ☎(0952)23-1111(代)
www.newotani-saga.co.jp

サラダ油・小麦粉といえば、
やっぱり理研



本

理研農産化工株式会社

社 〒840-8691 佐賀市大財北町2番1号

TEL / 0952-23-4181 (代)

FAX / 0952-29-9553

URL <http://www.riken-nosan.com/>

想いをのせて ふるさとをつくる

1918年の創業以来、この地で皆様と共に歩み続けてきました。
これからも、ものづくり 街づくり 環境づくり 皆様と共に。



 株式会社 **中野建設**

代表取締役社長 中野 武志

本 社 〒840-8588 佐賀市水ヶ江二丁目11-23
T E L (0952)24-3211 F A X (0952)24-3210



Grain & Pet Care Communication

株式会社 森光商店

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7
PHONE.0942-85-1125(代) FAX.0942-83-8868

ホームページ <http://www.morimitsu.co.jp>